教育委員会協議会記録

１　日　時　　平成１６年９月３０日（木）午後５時２５分～午後５時３５分

２　場　所　　小田原市役所　３０１会議室

３　出席者

（１）教育委員

岡野委員長、小林委員、島田委員、桑原委員、江島教育長

（２）事務局職員

石嶋学校教育部長、白木生涯学習部長、寺山学校教育部次長、今村生涯学習部次長、杉崎教育総務課長、大木図書館長

（書記）関野教育総務課総務担当主査、田代教育総務課主査

４　概　要

（１）報告事項

ア　市議会９月定例会の概要について

資料１により、教育総務課長が説明。

教育総務課長…資料１を御覧願います。平成１６年度９月補正予算につきましては、８月定例会で御報告申し上げましたとおり市議会にて議決されました。続きまして、９月議会における一般質問でございますが、質問者は１６名で、そのうち６名から教育委員会関係の質問がございました。質問と答弁の概要につきましては、お手元の資料のとおりでございますので、後程目を通していただければと存じます。

（質疑・意見なし）

イ　小田原文学館特別展の開催について

資料２により、図書館長が説明。

図書館長　　…資料２をご覧頂きたいと存じます。文学館の特別展につきましては今年度で第１１回を数えますが、今年度は「小田原で生まれた“まざあ・ぐうす”展を開催することとなりました。副タイトルとして「みみずくの家から、日本の子どもたちへ」といたしました。白秋先生関係の文学館

での特別展は４回目になりますが、これまでややもすれば、日本の風景や心情に根ざした創作活動に脚光が当てられがちですが、これまであまり知られていない童話の翻訳という面に光を当て、幅広い先生の業績の一部を紹介しようと企画してみました。「マザー・グース」は、イギリスの伝承童話のことです。白秋先生は、この伝承童話をひらがなで「まざあ・ぐうす」と名付けました。現在はカタカナで「マザー・グース」と標記されることが普通となりましたが、８３年経った今も変わらず、この伝承童話は「まざあ・ぐうす」と呼ばれ続けております。この「まざあ・ぐうす」を日本の子どものために翻訳し、広く紹介したのが北原白秋先生です。そしてその翻訳作業はこの小田原で行われました。

１９２１年、大正１０年１２月１３日が初版日になります。この発行日を日本の子どもたちへのクリスマスプレゼントのためにと考えるのは、思い入れが強すぎるのでしょうか。さて、白秋先生よりも前に、竹久夢二や土岐善麿（とき　ぜんまろ）などが日本語訳をしましたが、白秋の童謡集３冊目となる「まざあ・ぐうす」は、できるだけ原語の英語に沿って、しかも子どもたちが歌えるようなリズムで訳されているところが特徴であると言われております。今回の特別展を通じて、その翻訳の苦心の後が垣間見られる書き損じの原稿等を展示するほか、英語のマザー・グースやいろいろな翻訳本を展示し、本を手にし、マザー・グースの世界に浸っていただきたいと企画したものでございまして、併せて小田原ゆかりの作家である北原白秋先生の偉大な功績と、その創作に少なからず影響を与えた郷土小田原を広く子どもたちに知っていただきたいと、小中学生の入場料を無料とする一方、通常の特別展の期間よりも長く、冬休みを含める設定をしたものでございます。展示期間が長期にわたるため、資料の３にございますように前期・後期に分けて資料の入れ替え等を行うこととしております。また、これに併せまして関係の催し物といたしまして「講演と朗読　まざあ・ぐうすの世界」を白秋童謡館の庭園で行うこととしております。出演は、講演が秋田経済法科大学短期大学部助教授で白秋研究家の平（たいら）先生、劇的朗読を奥さんの真澄（ますみ）さんにお願いすることとしております。奥さんの真澄さ

んは文学館の観桜会に毎回ご出演を頂いている方でございます。こちらは、先着１００人までとさせていただき、電話で申込みを頂くこととしております。期日は１１月３日文化の日の午後１時からを予定しております。委員の皆様方におかれましては、ご多忙のところとは存じますが、特別展及び関連催事にお運び頂けますよう、ご案内する次第でございます。以上で説明を終わらせていただきます。

（質疑・意見なし）